

たった今、三井記念美術館から
六中に到着しました…!!

みんなで
見に来てね。

高精度 雪松図屏風



国宝「雪松図屏風」
円山応挙筆
三井記念美術館所蔵作品

2階 集会室

本日 10:35～14:30 (昼休みも公開中)

武蔵野市立第六中学校
中 村 み ど り

日本の美術や伝統と文化を学ぶ

高精細雪松図屏風鑑賞教室から

和の表現題材へ

鑑賞の活動 武蔵野六中の実践報告





ゲルニカを味わう
「絵は見る人の眼と心でよみがえる」



風神雷神図屏風

「図工でも見たよ。」



自然の色と形を生かして
「クラス全員でコメントを書き合おう」



生活用品を通して良いデザインの
秘密を探ろう 「グループ鑑賞会」



ランプシェードのアイデアを見直そう
「グループ鑑賞会」



コラージュで作る不思議な
世界「グループ鑑賞会」



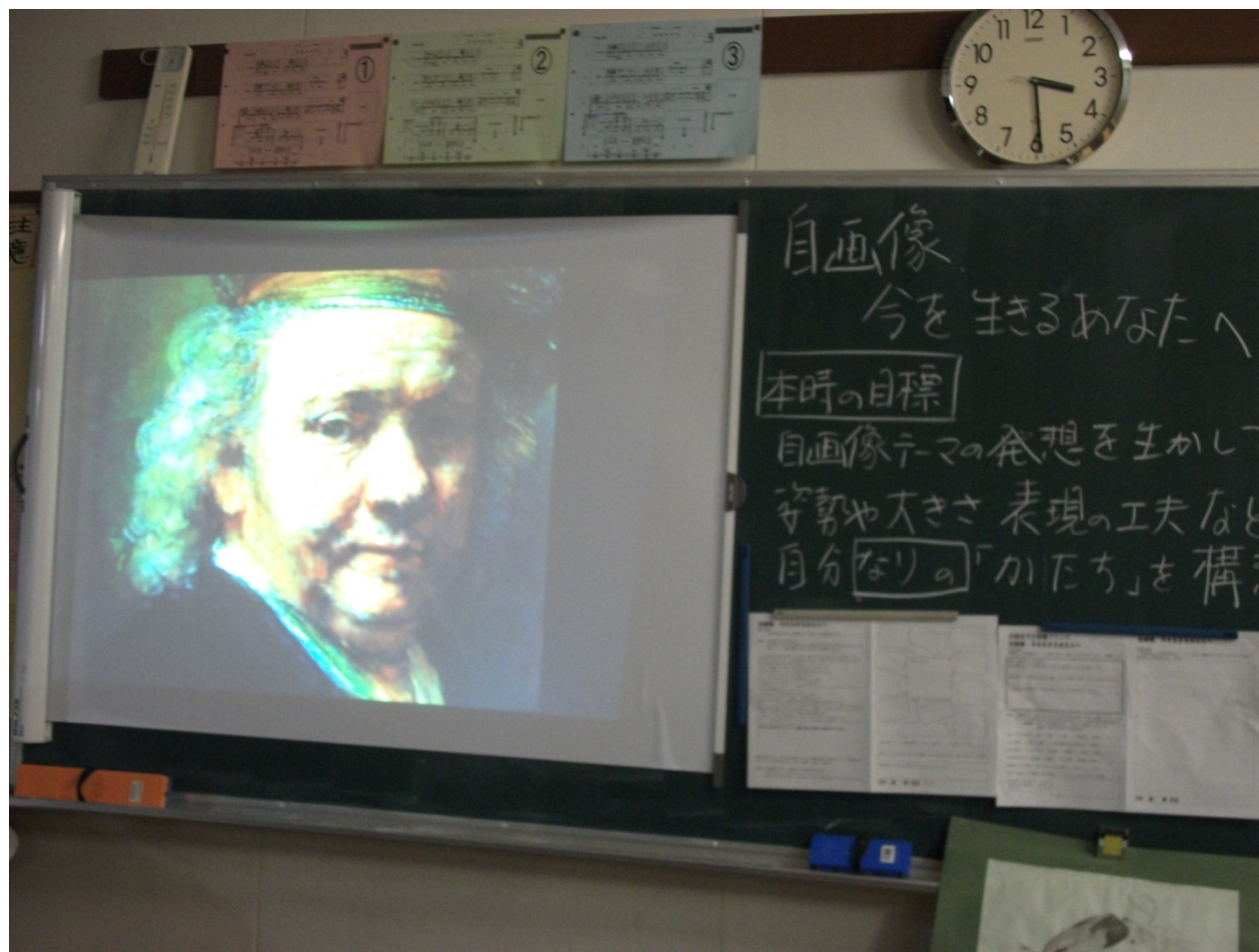


伝統工芸を知ろう

「むさしの六中伝統工芸展覧会」

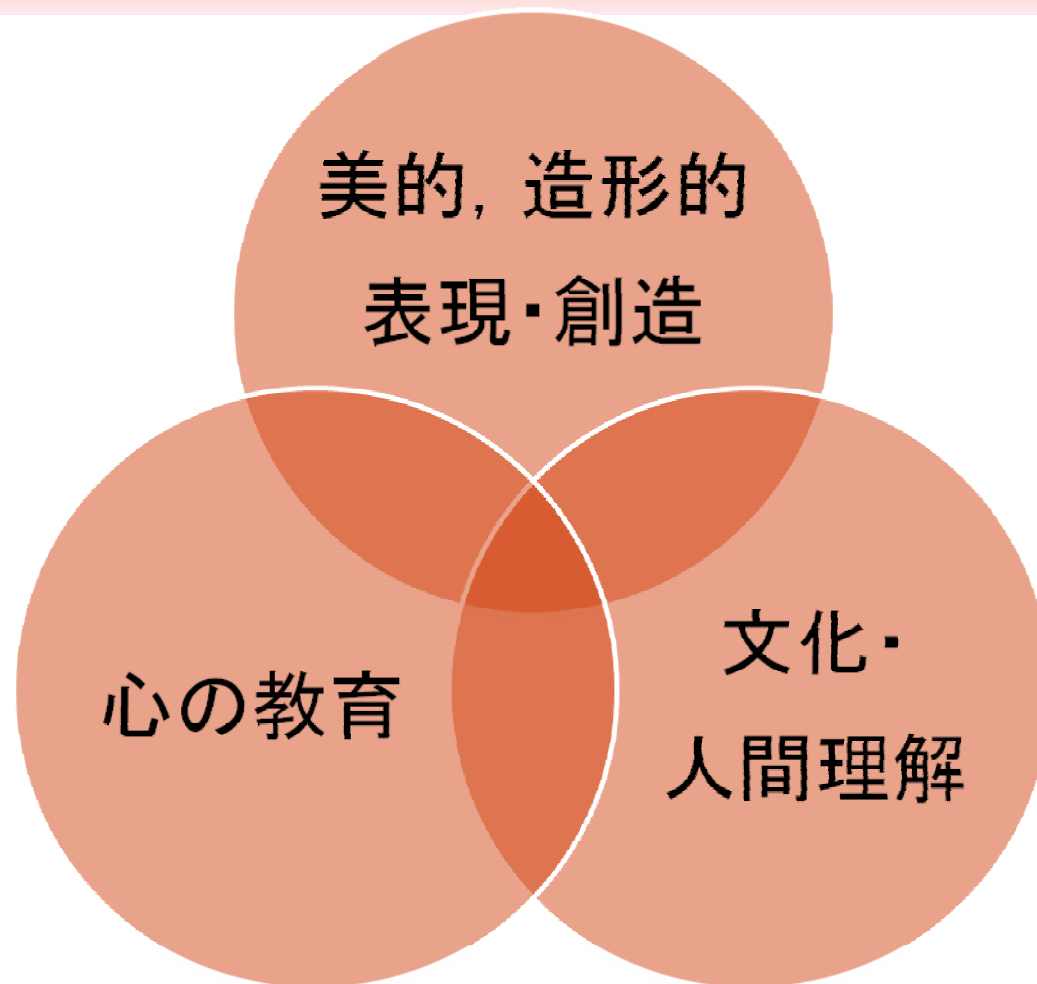


環境とともに 生きる造形 「グループ鑑賞会」



自画像、今を生きるあなたへ
「有名な作家の自画像や人物画を鑑賞」

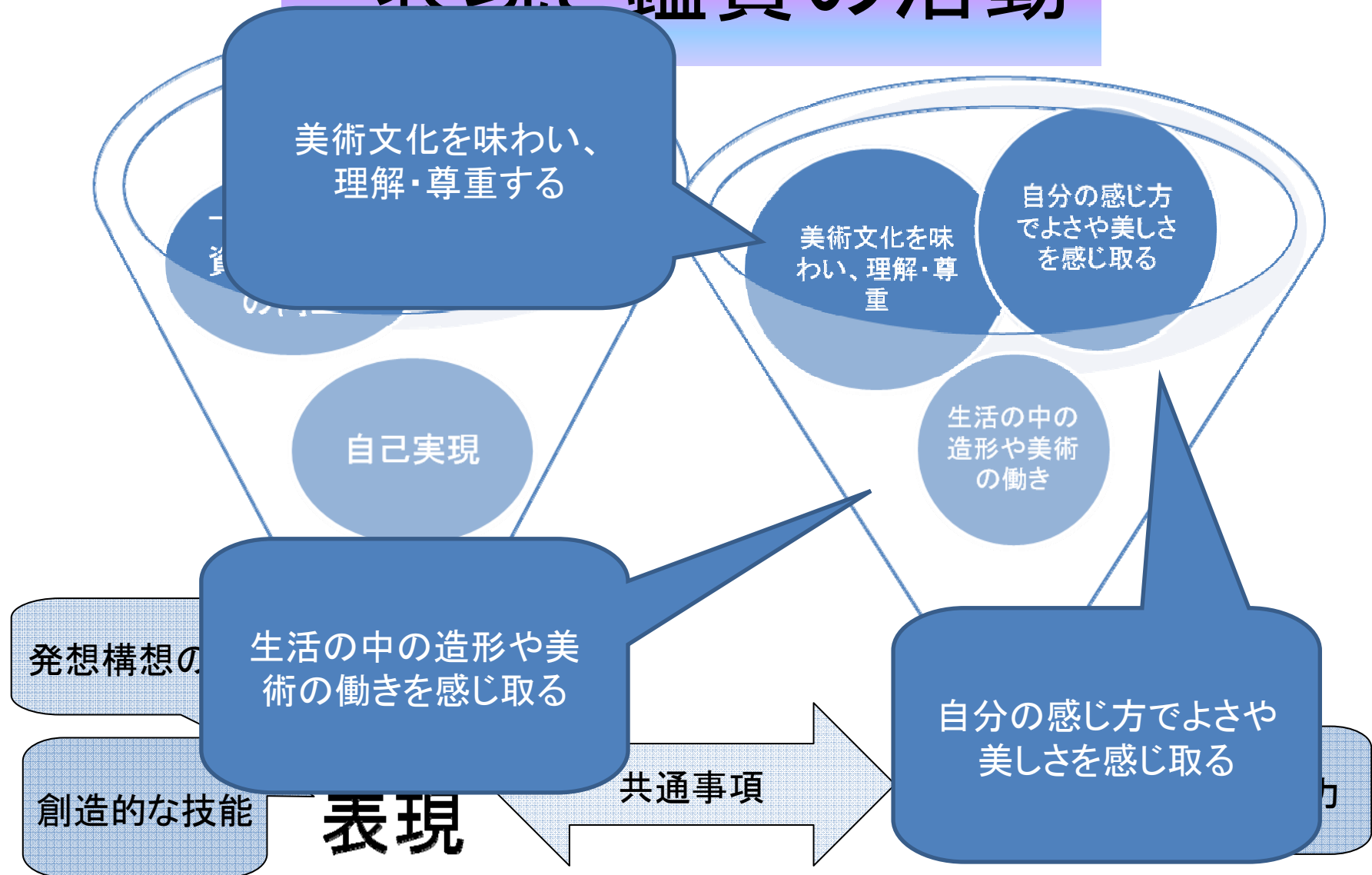
美術科の教科の目標



新学習指導要領にあった指導計画 改善の4つの具体的なポイント

- 創造活動の基礎的な能力
- 生活の中の造形や美術の働き
- 自分なりの意味や価値をつくりだす
- 美術文化の継承と創造

表現と鑑賞の活動



B 鑑賞の内容

「鑑賞は、新しい価値をつくりだす創造活動である」

鑑賞は単に知識や作品の定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、

知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、

自分の中に新しい価値をつくりだす学習である。

このような鑑賞の学習を推進していく手立ての一つとして、言語活動の充実を図った。

B鑑賞の内容

「他者の視点を自分の中に取り入れる」

他者の考えなども聞きながら、自分になかった視点や考えをもつ

ことは大切であり、それらを取り入れながら、

自分の眼と心でしっかりと作品をとらえて見る

ことにより、

自分の中に

新しい価値が作りだされていくことになる。

第1学年では、

「作品などに対する思いや考えを説明し合うなど」

第2学年及び第3学年では、

「作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなど」

B鑑賞の内容

「表現と鑑賞の学習の関連を図る」

表現と鑑賞は、関連を図りながら指導していくことが重要である。たとえ、それぞれが独立した題材で直接、内容の関連が取れない場合においても、鑑賞の学習が表面的に作品の定まった価値を学ぶだけの学習にならないためには、

鑑賞の学習の中に表現において発想や構想の場面で
イメージを膨らませるような視点

や、制作手順をたどりながら

表現方法に着目させるような視点
を位置づけることが大切である。

「一番大切なのは、(子どもが)美術
の授業を喜び、やってよかったと
思える授業づくりである。」

H20.5/23 研修・講演会

「新教育課程の実施に向けて

—これからの美術教育の在り方—」

前 文部科学省 初等中等教育局

教育課程 教科調査官

村上 尚徳 先生

美術の授業に限らず、中学生は、

- 自分のやりたい事が出来たときが1番楽しい
- 友達の色々な考えや思いを知って、わかりあえると嬉しい
- 自分の思ったこと考えたことが素直に出せると、満足、充実
- 今まで出来なかったことが出来ると楽しくなってくる
- 今まで知らなかった事を知る、「新発見」って、感動的
- 新しいことをやる時は、興味津々・・・



「 つくり出す喜び 」 とは…

- さまざまな素材に触れて、自分で使いたい材料を選び、考えながら作ることは楽しい。
- 素材にふれて作ることは、中学生にとって、小学校の造形遊びの発展の学習になる。
- 日頃ふれたことのないものに生徒は心をひかれて興味を持つ。
- いろいろな素材に興味を持つことで、制作の喜びや意欲が高まる。

「 作品を見て味わう喜び 」 とは…

- ささまざまな作品に出合って、自分の好きな**作品を選び、考えながら見る**ことは楽しい。
- 作品と出会うことは、中学生にとって、小学校の**鑑賞の発展の**学習になる。
- 日頃ふれたことのないものに生徒は**心をひかれて興味を持つ**。
- いろいろな作品に興味を持つことで、**鑑賞の喜びや意欲が高まる**。
- 自分が好きな作品に出合えた時に**達成感、満足感**を感じる。

高精細「雪松図屏風」を活用した 文化財に親しむ鑑賞





三井記念美術館／教育普及員 亀井 愛さん

4 感想 (他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

特に、たくさん作品をつくっていると知ったので、他の作品も見たいと思った。とくに風神雷神図びょうぶを見てみたいと思った。

また、題名をつけるのはとても難しかった。他の人の題名をみて、自分と真逆の考えをもっている人がいて、美術は人によって全然見方が違うんだなと感じた。

また、雪を、白くぬったのか、それとも他の部分をぬったのかを見分けるのはむずかかった。でも、近くになると、他の部分をぬって、白い部分は、ぬっていないというのがすぐ分かっておもしろかった。

色をほとんど(3~4色)つかっていないのに、リアルに、すごいと思った。最初は地味だな、と思った絵でも、だんだんとすばらしい作品に見えてきて、鑑賞をじっくりすることとしても面白いことだと感じた。

また、見る場所を変えて、自分が一番好きな所を決めるのは、ずいぶん決まらなくて、どの場所から見ても同じじゃん、と思っていたが、じっくり見ると全然見え方が違ってびっくりした。私は最終的に、木の根、こが見えない所にして、そこから見ると「天空」の様に見えた。左側(私から見ると)のびょうぶをもし壁に立てたら、絶対「天空」とは呼ばないだろうと思う。(偉い)

私は今まで絵などを多方面から見ることにはなかったのに、この機会を境に、たくさんものを多方面から見ることができるようになった。とくに日本の美術品は今までほとんど見たことがないので、ぜひ、たくさん作品を見てみたいと思った。

(このびょうぶは、たくさんの方の協力があって、見られたのだと)
思いました。ありがとうございました！

4 感想 (他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

・はじめに、こんな絵を見て、初めはただ松の木が数本あるだけに見えなかったけれど、友達の見方を聞いていくうちに、この絵についてたくさんを知ることができた。まつぼっくりが出来るのは自分では気づけなかったし、それは、みんなが授業を受けているからだと思う。見る角度や場所を変えてみたり、部屋の明暗を変えるだけで見えてくるものや、松の木の見え方が全然違うことに気づいた。細部まで細かく描かれていたり、雪の部分には何も描かれていなかったりと、たくさん工夫がされていたので、すごいと思った。他の作品もきかしく描かれていて、とてもいいと思った。あまり色をつかっていなくても絵から様々なことが感じとれて、いい絵にひきよえられるほど魅力的だと思った。思ったより、屏風が大きくて、強く迫力があつた。実際、屏風に描かれていたのは、松の木だけだけれど、色のぬり方や、雪の表し方から自分で背景にはきっと人がいて、陽が照らされているんだろうな、とそうぞう出来た。金色で背景が塗られているということも初めは気づかなかったけれど、友達や、三井記念美術館の方の話を聞いて、気づくことが出来たし、金色と分かってからと、分かる前で見えてくる絵は少し違った。初めに、「この絵の木は、どうして木だと思う？」と質問されたとき正直私は「雪松図屏風」という題名だからという理由しか出てこなかった。どうして？と質問されて最初は答えられなかったけれど、授業の最後のほうには、まつぼっくりがついているからだと、木の幹がギザギザしているからなんだ！と、理解を深めることが出来た。雪がかわってないか？の部分が悪くなっている部分に私は一番この絵で好きな部分で気に入った。また、部屋を真っ暗にして彼の前におかれているランプの光だけで、自分の好きな角度から見るのが良かった。自分の好きな角度をきめるのは、どの角度からみてもまた別の良さなどがあるので決めるのが大変だった。

貴重な経験ができて良かったです。ありがとうございました！

4 感想(他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

・他の人の意見を聞いて、たはづくりが書いてあるねと、
自分では気づけなかった、想像できなかったことを
たくさん感じとれました。

また、見る時も江戸時代と同じように見えたので、その時代の
雰囲気が感じられて良かったと思います。

この展覧会(作り)にあっても、たくさんの方がかかっている
と思うと、すごいと思いました。もらった冊子に、複製
を作り工程がかかれています。私は、絵だけ同じで
まわりの黒い部分はその時代と違うものを
はっているのだと思いました。調ど品?と言うのか
わかりませんが、金具まで同じとはびっくりしました。

また、感心し、同時に感激しました。次も見れ
たら、そのような細かいところまで見てみたいですね。

この取り組み(プロジェクト)はとても良い案だと思います。

中学校で、このようなすごい作品を見れてとても良かった
と思いました。小学校では「風神雷神」を見たのですが、

コピーで、いろいろ迫りがなくあまり思うようなことは

ありませんでした。しかし、canon社が提供してくれた

最先端の機械を使うところも違うのかと実感しました。

正直に言うとあまり身近に感じなかったcanon社と美術

博物館の作品が身近に感じられ良かったと思います。

このような機会を用意していただき、ありがとうございます。

ぜひ、大中学校だけでなく他の学校もお願いします。

4 感想 (他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

少ない色でこの作品がつけられているのはすごかった。
コピーされているとは思えなかった。

集会室に入った時、すごくきれいでした。
大満足にもおどろいた。

なぜ黒と白の白で松の木を書いていてなんでも
こんなにきれい書けるのだらうとおどろきました。

まじかで見ると雪がふっているのと、冬なのにあんな
に明るい松の木のところにはさっぱりとまっ白く
書いてあるのに、すずませんでした。友達に言われて
すずきました。下の方に金がつかわれてきれいでした。
次にこんな素敵な体験があったらもっとはっげん
をしたりしたいです。

今回は六中のために素敵な作品を見せてくだ
さってありがとうございました。

4 感想 (他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

まず集会室に入って作品を見たとき、とてもびっくりしました。普段美術の授業で作品を鑑賞するときは、教科書を見たリコピーしたのを見たリすることが多かったのですが、本物ではないけど、本物そっくりでしかもとても大きいものも実際に見ることができて、とても良い経験になりました。近くからでは気づかないことも、近くで見ると細かいところまで分かりました。また、自分では気づかなかったことも他の人が発見してくれたりすると、「そういう見方もあるのか〜」と勉強になりました。作品を見て、本物そっくりに作ったキャラクターの技術もすごいなと感じました。

鑑賞中、「雪の白は元々の白で描かれているか、それとも後から描いたものなのかどちらか？」という問いがあって、正直私はどちらか全然わかりませんでした。でも、友達がこれは元々の紙の色だという発言を聞いて、私ももっと近くで見ると確かにそんな感じがするなあと思いました。また、最初私はまっぼろが描かれていることに気づかなかったけど、これも友達の発言を聞いて発見できました。

作品は、じっくりと近くですみからすみまで見れば見るほど、いろんな発見ができることを学びました。自分一人で作品を見ていたら、きっと気づかないままだったと思います。より多くの人と一緒に鑑賞するのは、とても良いことだなと実感しました。本格的な鑑賞授業ができて良かったです。

本当にありがとうございました。

4 感想 (他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

見る人によってこの屏風はいろんな色へに変わるんだと思いました。

私は、松の立体感やとても青いという色が第一印象でした。

下んたん見ていると、この屏風は12月ぐらいの松を描いたもので、青いかなと思いました。

背景が淡い感じの色で雪がふわっとしている感じがして私はこの屏風は雪のふいた朝の松だと思いました。

私は、斜めから見たらとても松の立体感とか色がよくていいと思いました。下んたんの色をうまく作られた屏風だと思っていて、とても色と色がよくあっていることがわかりました。

日本人は、こんなにいいで素晴らしい作品を作れるんだと分かった。この色と松とが描けるのは日本人しかないと思います。

松や松に積っているふわとした雪が日本の情景をよく表しているなと思いました。雪を白くするのではなく、米の粉を混ぜた特別な和紙の素材で雪が表現されていて素晴らしいと思いました。

ところどころ真白ではなく少し色が混ざっていたり、ぼかしているような感じのところがあって、雪がふわっとして見えるんだと思います。

松も枝が一本一本描かれていて立体的にそして、堂々と凛々があるように見えたんだと思います。

幹の曲がり具合とかも本物の松のように描かれていて、色が濃いうちうち、雪に少し混ざっているところがあって、これも松やとても立体的に見えた理由のひとつだと思います。

キャンさんの技術でここまで本物に近い複製品を作れるのなら、海外に日本の文化財を広げたいことができていいかなと思いました。

4 感想 (他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

・一瞬見ただけだと、その作品の技術など
は分からなけれど、りっくりと、時間
をかけてその作品を見ていると、作着の
くろうや手間、作品にこめた思いなどが
分りか、てくるような気がします。

・暗い中で見るのと、明るい中で見るのでは、作品の印象
や、作品に対しての感じ方が変わる。

・その作品から、季節感などを読みとめて面白かった。

・よく見たら、雪は、白い糸の具でぬられていな
いことを知り、驚きました。けれど、「雪は糸の具
でぬるよりも、本々の紙の色を生かした物の方
が、より本物の雪のように見えるな」と思いま
した。

・江戸時代に書かれた物なのに、こんなにも雪の感じ
や、冬、雪が降り終る、たような感じ、見ているだけで
寒さを感じられるような作品で驚いたし、あまり色を
使っていないのに、すごく季節感が出ていてすごい
と思いました。

・この作品を見て、できることから、私も1度はあのような
素晴らしい絵を書いてみたい、と思いました。

4 感想 (他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

他の人の意見を聞いて、「私の気持ち」を、考えさせられた。

長い冬ののりきりのためにカンパニしている風にも見えた。

気持ちよさそうに見えたので、作品には、色々な見方があった。

おもいと思いました。

また、作品の描き方に、とくちゅうがあり、白い紙を背景に、えだのよに、木がのこ

りみみ見えるのは、日本人だからできる事だという風に感じ、日本人の文化

を知る事ができました。

他にも、スケールの大きさと、細かさと、色の使い方に、感じました。

自分には、一生かかっても、できないような、作品を作られた、方は、

「本当に、日本の美術が好きな人だ」と思いました。

昔の美術を、今に伝え、自分たちも、その文化を、

将来、大人になった時に、伝えられればいいと思いました。

また、その次の世代にも、日本の美術のよさを

伝えていきたいと思いました。

自分の考えた事と、他の人が考えた事の違いいにも気付く事が

出来たので、この経験で、人生も変わった気がします。

4 感想（他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと）

最初にこの屏風を見た時は松の木に雪がかかっている
くらいの印象だったけど細かく所まで見て、他の人の話
をきくと、たぐさんの工夫がそこにあるということがわか
った。特に、もとは白い紙で、その白い部分が雪になっていた
というのにはとてもおどろいた。

まわりの意見ときくと、この松の木にも感情があると思
えるようになった。

僕は屏風、いうものはもと大きいものだと思っていたけれど、
思ひより小さくて、でもとても迫力があつた。

他の人の意見によると、木の下の方はうすく、上に行くほど濃
い、と書いてあったので見てみたら本当に下の方の幹は
下の方で切れてはっていて、上に行くとも木はうすそうとしがって
いるような気がした。現代で言うとグラデーションのようなこ
とをしていたということが分かった。今の人が美しいと思う
ものは昔の美しいと同じものだと思った。人間本来、日本
古来の美しさを感じることができた。

金がかがはられていたり、木の枝のところに細かさを感じ
見た目は松なので、見た目そのまま松と思っていたけれど、「な
ぜ松なのか」と聞かれると意外に分からなかったけど、よく見て
みると松はくりがっついていたりして見込み内容が分かりやす
いようになっているということも分かった。

4 感想 (他の人の感想を聞いて感じたこと 自分の思ったこと、もっと知りたいと思ったこと)

他の人が考えたタイトルは、とても面白いものがたくさんある。自分でもこの絵を見て、タイトルを考えたんだけど、とても難しかった。おもしろいものがあって、いいところや、とても難し感じた。図の発表で出て、いろいろな意見は、個性があっていいと思った。自分、考えと違う。とても違う意見もあるけど、同じような意見もあり、とてもいい。中でも「冬から春へ」という題は、自分の考えに近いような感じだった。

屏風は、正直思っていたより、小工だった。とても大工と聞いていた。すごく大工のいいかと思っていた。でも、大工ではないと感じた。それが江戸時代(?)に作られたもの(描かれたもの)の中では、とても大工のいいところと、思っている。歴史で江戸時代の文化について勉強した。写真で見ただけだった。どのくらいの大工かわからなかった。今日の作品を見て、江戸時代のことや、よくわかり、江戸の人々はすごいと思った。

大工だけでなく、色の使い方にびっくりした。白い部分は色をぬっていないはずなのに、遠くから見ると、上にやがら立っているように見える。(雪)とても不思議に思えた。背景、効果的なか、絵自体、効果的なか、まあ、とてもいいくらいかわからなかった。昔の人は、このような絵をたくさん作っていた。昔は米の粉を使って、上からやがら立っているように見えたのと思う。でも、今日見た作品は、ぬっているわけでもないのに、やがら立って見えるなんて、昔の作品よりもすごいと感じた。

(質問) どのように、白にもぬっていない白い部分が、上からやがら立って見えるのでしょうか？

高精細「雪松図屏風」を活用した文化財に親しむ鑑賞

1. 目的 高精細「雪松図屏風」の鑑賞を通して、日本の美術や伝統と文化に対する理解を深める。

2. 日時 平成25年 1月23日(水) 8:50-15:30 ※9:00より搬入・準備(搬入時、本校主事の立会い)

3時限 10:45～11:35

4時限 11:45～12:35

5時限 13:30～14:20

3. 会場 武蔵野市立第六中学校 3階 集会室

4. 対象 2年生(3校時A組29名、 4校時B組29名、
5校時C組28名)

5. 内容(おおよそ)

【導 入】ごあいさつ・紹介(5分) [中村先生]

【展 開】高精細「雪松図屏風」を鑑賞する(35分)

[三井記念美術館教育普及員 亀井 愛 様]

【まとめ】綴プロジェクトについてのお話(5分)

[キヤノン株式会社 藤原良誠 様

または 二瓶伸久 様]

まとめ、感想シート記入(5分)[中村先生]

2年生各組代表によるお礼のことば

6. 共催 三井記念美術館、 キヤノン株式会社、 NPO法人 京都文化協会

7. 配布資料 ※授業時は使用しないもの 各120部

・プリント「綴プロジェクトについて」 →キヤノン

・鑑賞ワークシート →美術館

・小冊子「日本の美術ことはじめ」 →美術館

8. 準備

・通 知……「美術科通信」による保護者への案内通知、
武蔵野市図工美術部会への案内

・美術授業……冬休み課題を扱った「校内六中伝統工芸品展」鑑賞、日本の伝統絵画、及び円山応挙に関する事前学習

9. 来校者

・三井記念美術館 (学芸部長)清水 実様
(教育普及員)亀井 愛様

・キヤノン株式会社 (文化支援推進課)

二瓶伸久様・藤原良誠様

〃 (メディア制作課)足原志子様

(写真制作課)山口和人様

・NPO法人京都文化協会 藤野 智子様

・京都国立博物館 水谷 亜希様

・日通 美術作業員 2名

10. その他の見学・視察 文部科学省 初等中等教育局
教育課程課 教科調査官 東良雅人氏
保護者の方、本校教職員

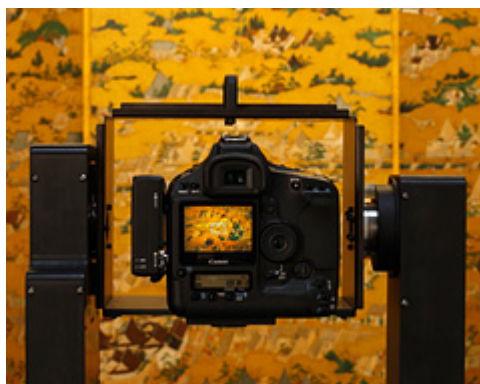
11. 会場設営 ・集会室の暗幕準備(美術科、学校主事)

・当日8:30より、屏風の搬入・控室として応接室の準備

綴TSUZURI

文化財未来継承プロジェクト

NPO法人 京都文化協会
キヤノン株式会社



第5期 2012年5月30日公益財団法人東京都歴史文化財団
(東京都美術館)に寄贈された群鶏図(尾形光琳)



第4期 三井記念美術館に寄贈された
高精細 雪松図屏風(円山応挙筆)

「高精細雪松図屏風鑑賞」につながる授業

冬休み課題		伝統工芸品を探そう	鑑賞
2年	3学期1	むさし野六中伝統工芸作品展	鑑賞
	3学期2	日本の伝統絵画鑑賞	鑑賞
	3学期3	<u>高精細 雪松図屏風鑑賞教室</u>	鑑賞
	3学期4	和モダンランプシェードの発想構想	表現
	3学期5	印象派とジャポニスム 和モダンランプシェード鑑賞会	鑑賞 表現
	3学期6	和モダンランプシェードの制作	表現
3年	1学期	修学旅行に向けて・仏教美術	鑑賞
	1学期	和風のデザイン／扇面画	表現



むさしの六中伝統工芸展覧会

「むさしの六中伝統工芸展覧会」授業の感想より

2年 鑑賞 (1)ア、ウ

- 家で探すとき、正直何を持って行けば良いのか分からなかった。でも、ある時台所に行った時に茶筒に出会った。見た感じがとてもきれいで、自然そのものの素材が生かされていると思った。日本の昔は手作りでひとつひとつ丁寧につくられていてすごいと思った。
- 日本の伝統工芸品がここまで美しいとは思わなかった。日本のものは素材の美しさを活かして作られていると感じた。自然の淡い色の中に美を見出す—それが日本の美だと感じた
- 昔から作られていたものが、現在まで残っているのは、その形や美しさをいまだに人々に認められているからだと思った



季節感を生かした
和モダンランプシェード”
平成24年度第2学年 心をともしあかり



和モダン ランプシェード





雪松図屏風の影響が感じられる作品
平成25年度 第3学年扇面画

平成23年度 市展出品 3年扇面画



廊下に展示された扇面画

3年B組

○日本の伝統的な絵画のよさや美しさを生かして、見た人や自分が心地よく感じるデザインを発想構想して画面を描こう。
○花鳥風月や和風をテーマに題材を選び、暮らしを彩るデザインや工芸作品のよさを味わおう。



3/3/2012 11:40



平成24年度 市展出品 3年扇面画



日本の花鳥風月 ／
松をモチーフにした作品





冬の季節感 ／ 雪を表現した作品



平成25年度 第3学年扇面画
／ 雪松図屏風の影響をうかがわせる作品

B鑑賞の内容

「鑑賞は、新しい価値をつくりだす創造活動である」

知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくりだす学習である。

B鑑賞の内容

「他者の視点を自分の中に取り入れる」

他者の考えなども聞きながら、自分になかった視点や考えをもつことは大切であり、それらを取り入れながら、自分の眼と心でしっかりと作品をとらえて見ることにより、自分の中に新しい価値がつくりだされていくことになる。

B鑑賞の内容

「表現と鑑賞の学習の関連を図る」

それぞれが独立した題材で直接、内容の関連が取れない場合においても、鑑賞の学習の中に表現において発想や構想の場面でイメージを膨らませるような視点や、制作手順をたどりながら表現方法に着目させるような視点を位置づけることが大切である。



ご静聴ありがとうございました。

武蔵野市立第六中学校
中 村 み ど り